

国際ロータリー第2560地区
ガバナーテーマ

「自らのロータリーストーリーを
作りましょう」

高田ロータリー
今年のスローガン

「善意を深め、
奉仕の力を昂めよう」



インスピレーションになるろう

2018～2019年度

国際ロータリー会長 **バリー・ラシン**
2560地区ガバナー **川瀬 康裕**
高田ロータリー会長 **牧野 章一**
幹事 **佐藤 教彦**

事務局：新潟県上越市西城町2-10-25 大島ビル201号
TEL (025) 526-3288 FAX (025) 526-3534
メールアドレス：takadarc@joetsu.ne.jp
例会場：デュオ・セレッソ TEL (025) 526-3111

クラブ広報・会報・雑誌委員
堀井 靖功 岩崎 幹男 宮川 大樹

第40回例会 ■ 6月7日(金)

No.40

会長挨拶 ● 牧野 章一



皆さまこんにちは。

理事会報告です。先般4月26日の理事会で衛星クラブ設立が認められました。その目的は、会員拡大です。当クラブ会員数は減少の一途を辿っています。2006～2007年 大谷年度 期首会員数 93名を最高として ここ数年は60名代で推移しています。この先を見据えて、持続可能なクラブ運営に会員拡大は急務といえます。

そこで、衛星クラブを設立し、今までと異なる視点から会員拡大を計ることによって女性や若い世代をターゲットに会員を募ります。この会員は、正会員へステップアップすることを目的とします。

また、衛星クラブの設立と運営フォローをする仮称「衛星クラブ委員会」を立ち上げます。その委員長（リーダー）に大島誠さんが推挙され承認されました。

委員の選任は大島さんをお願いしております。その際には、「ハイ」か「YES」で、いや「喜んで」でお引き受け下さい。

諸般の事情から大島さんとの打合せが遅くなり今日の報告となりましたこと、ご理解下さいますようお願い申し上げます。

衛星クラブ設立によるクラブの定款・細則は、RI日本事務局の助言に基づき、標準ロータリークラブ定款及び推奨ロータリークラブ細則に則ります。ご理解、ご承知おき願います。

本年度、卓話の大取りは上越教育大学 教授 光永 伸一郎様です。テーマは「『発酵のまち上越』の食文化」です。ご期待しております。ご清聴下さい。

出席報告

出席率 96.15%

メイクアップ

嶺村俊之君（6/3 高田東 RCにて卓話）
高坂光一君（6/3 高田東 RC、6/4 直江津 RC）

委員会報告

出席ニコニコ BOX 委員会

三井慶昭君・本山秀樹君・橋詰敏一君・高橋正彦君

ハンブルグ国際大会に参加してきました。当日は25,000人のロータリアンが全世界から参加したとのことで、大きな大会感動しました。大島 誠君——父 大島精次の葬儀に際しましては、大変お世話になりました。感謝申し上げます。

高橋正彦君——5月30日に待望の女の子の孫が生まれました。

地区からの一言

本山地区幹事——国際大会参加報告
国際奉仕委員会——ジョン君近況報告

幹事報告

配布物：週報No.39

回覧物：ガバナー月信6月号

卓話

「発酵のまち上越」の食文化

国立大学法人上越教育大学 教授 光永 伸一郎 様



今回は、「発酵のまち上越」の特徴的な食文化について、紹介させていただきます。

1. 「発酵のまち上越」のみそ(赤色・辛口・香味・浮きこうじ)

上越地域のみそには、赤色、辛口、香味、浮きこうじといった特徴があります。原料の大豆を煮ることによりその雑味が取れ、上越独特のなだらかな気温の変化が、鮮やかな赤色みそを作り出しているのだそうです。

2. 「発酵のまち上越」の微生物(こうじ菌と酵母菌)

発酵食品であるみその製造工程には、さまざまな微生物が関わっています。上越のみそは浮きこうじみそとして知られていますが、ここで重要な役割を果たしているのがこうじ菌です。浮きこうじみそは、みそ汁を作った際、原料の米こうじが雪のように浮かんでくることからその名がつけられました。米こうじは炊きあがった白米にこうじ菌を塗して作るのですが、上越のみそ屋さんはこの工程でこうじ菌が白米の中心部を溶かし袋状の米こうじができるように生育環境を整えているそう

で、結果として、浮きこうじみそに最適な米こうじが出来上がるとのことです。

また、上越みその爽やかな香りを醸し出しているのが酵母菌です。製造工程のどの段階でどのように酵母菌を加えるかにより、それぞれのみそ屋さん独特の香りが生まれるとのこと。個性豊かな上越みそが、くじら汁、たけのこ汁、スキー汁といった地域のみそ汁文化を支えていることとなります。

3. 「発酵のまち上越」の博士(応用微生物学者・坂口謹一郎)

みそ作りに欠かすことのできないこうじ菌を研究の対象とされていたのが、上越の偉人・坂口謹一郎博士です。坂口博士の功績のひとつに、こうじ菌の分類があります。博士は全国をめぐって集めた3,000株にも上るこうじ菌を、その形態と生理的な諸性質(酵素活性の違いなど)をもとに分類しました。平成17年にはこうじ菌の全ゲノム配列(全ての遺伝子の並び方)が明らかになり、博士が基礎を築いたこうじ菌研究は新たな局面を迎えようとしています。

国際大会に参加して

高橋 正彦 君

5月29日～6月4日にかけて、三井さん・本山さん・橋詰さんと私の4名でハンブルグ国際大会に参加してきました。

東京成田空港より空路約11時間かけアムステルダム・スキポール空港へ。運河の町アムステルダムには、2日間滞在し、美術館や市内観光を、市民の移動はトラムそして自転車、自転車の多さには、驚いたエコの町だなと感じました。

3日目は、スキポール空港より空路ブレーメン(ドイツ)へ。ブレーメンはメルヘン街道の終着点そしてブレーメンの音楽隊(グリム童話)などで知られている町、世界遺産に一部登録されており、現在ではドイツのNASAとも呼ばれるほど、航空機関連の企業が多いです。そしてドイツビールのベックスは、ブレーメン産でドイツビールの中で1番輸出されています。

5日目、ブレーメンより電車でハンブルグへ。そして国際大会に参加。会場はハンブルグメッセ、会場の大きさに驚きながら登録を済ませ、友愛の家(ロータリー展示市)を見て回り、いよいよ開会本会議へ。本会議は、午前・午後の2回行

われ我々は午後の部の参加、本会議は大会委員長のジョンT・ブラウント氏(アメリカ)のスピーチで始まり、ロータリー参加国の紹介・各ショーの後、バリー・ラシン会長のスピーチ、大会参加者は約25,000人、日本人は約1割の参加、参加者の服装は、民族衣装・カジュアルと様々な服装又、夫婦・家族での参加者も多く見られ、とにかくスケールの大きさに驚きました。

ハンブルグの町では、多くのロータリアンに出会うことができました。しかし言葉が通じないのが残念でしたが、そこはロータリアン同志なんとかなります。

最後に、次年度はハワイでの開催です。みなさんも一度は参加してみてください。

